

### 企画特集 多様性を考える

### 多様な時代の学びのかたち (学校教育の現場)

## ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン

人類が、次の選択肢を模索する事態になったコロナと共存する社会。日本人の常識やこれまでの社会の常道にとられず、より強く“自分を持つ”チカラを子どもから引き出す教育の現場が台頭してきたと思う。個性を尊重し、自分の持つ宝を信じさせて探る教育。新しい取り組みをする学びの場が、ここ数年で長野県に3校開校した。そのうちの1校、ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパンに話を聞いた。



ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン(以下 UWC ISAK)は多様な個性が集まり、1つに結ばれたコミュニティである。選りすぐりの教員陣に加え、様々な分野でグローバルな経験を積んだスタッフが学校運営を支えている。

や公共施設等で関係者とディスカッションをする様子を時に見かける。町主催のマラソン大会では、ボランティア活動にも積極的に参加する。こうしてリーダーシップのとれる人材育成を掲げながら、建学の精神である世界に通用する『チェンジメーカーの育成』を目指すのが UWC ISAK だ。

「一度しかない人生。自分の個性を生かして思い切り生き、自らの立つ場所から世界を変える。」を信条に教育現場は熱を帯びている。

「一度しかない人生。自分の個性を生かして思い切り生き、自らの立つ場所から世界を変える。」を信条に教育現場は熱を帯びている。

全寮制なので、町で暮らす生徒たちは地域にも密着している。美術館



コロナで失った、世界と繋がる  
ときの物理的壁

海外からの生徒たちは、コロナの影響で3月中に一旦帰国し、その後オンライン授業に移行した。しかし

コロナをめぐる状況は改善せず、8月になるまで海外の生徒たちは再入国ができないでいた。さらに、新入生は新規の留学ビザ発給が停止した影響で、年度始めの9月になっても入国できない状態が続いた。10月1日に新規入国者の受け入れが再開されたことで、キャンパスには希望が広がっている。

国際社会においては、時差すら感じさせないほどグローバル化が進んだ昨今、コロナのような疫病がもたらす見えない壁が、交流の術を阻むことになるうとは想像できなかったに違いない。全寮制である当校の代表理事・小林りん氏は「生徒たちが寝食を共にしながら学び合うということができない事態に、どうするかを考える毎日だった」と語った。当校は4月以降全面的にオンライン授業を採用した。しかし本来ならば、生徒たちは多様な価値観の中に身を置き、様々な生徒と共に関わり合うことで、多くの学びを得るものである。今回のようなケースに現場はどう対処していくかが、今後の課題ともいえる。教育は、今しかない時間と向き合う場であるのだから。

国際社会においては、時差すら感じさせないほどグローバル化が進んだ昨今、コロナのような疫病がもたらす見えない壁が、交流の術を阻むことになるうとは想像できなかったに違いない。全寮制である当校の代表理事・小林りん氏は「生徒たちが寝食を共にしながら学び合うということができない事態に、どうするかを考える毎日だった」と語った。当校は4月以降全面的にオンライン授業を採用した。しかし本来ならば、生徒たちは多様な価値観の中に身を置き、様々な生徒と共に関わり合うことで、多くの学びを得るものである。今回のようなケースに現場はどう対処していくかが、今後の課題ともいえる。教育は、今しかない時間と向き合う場であるのだから。

### 文化・芸術への取り組み

多様な文化を持つ生徒が集まる当校の芸術への取り組みを紹介しよう。当校では、生徒が主導する様々なクラブ活動がある。海外から来ている生徒たちは、やはり日本文化に興味を持っていて、キモノや茶道などに人気があるようだ。芸術面にも多様性が映し出されるのか、自画像を描くテーマにおいて、例えばイスラム圏の生徒は、宗教による禁忌もあるため自画像は描かない。絵を描く行為ひとつから、個々人の宗教や慣習を尊重することも学んでいる。このほか、町内にある「千住博美術館」ギャラリーで毎年秋に美術作品の作品展も開催している。

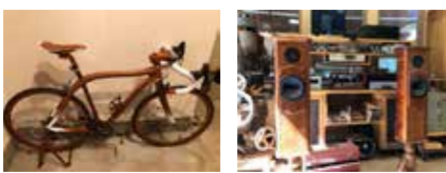


写真では生徒がマスクをしていませんが、これは昨年画像です。

つくりから身を引き、悶々と暮らした時期に、自転車造った。自転車レースに参戦する知人に依頼され造ると、たちまち話題になり今はマホガニー製の自転車とスピーカーを注文に応じて造る。

工房にある素晴らしいマホガニー製スピーカーからは、セリーヌ・ディオンの神の歌声が響き渡っていた。でも、そこかしこに細かい木の粉が降り注いでいる。『削っていると飛ぶんです。仕方ないよね』と呟く佐野さんにこちらも苦笑いした。

アトリエには、製作した1/2サイズのグランドピアノ、子どもが使った勉強机、書棚といった美しい色に変化したマホガニーの製作品が鎮座している。それぞれに深い思い出を纏い、誇らしげに存在を示していた。



佐野さんの武勇伝や苦い経験は、裏で支え続けた家族の愛情なしでは語れないものがある。しかしながら、全ては佐野さんの持っている技術の高さを信じて皆で支えたい証しだと感じる。

せっかく軽井沢に来てくれたのだから、一人でも多くの「佐野さん推し」を発掘したいと、これを書きながら思うのである。



Profile: 1958年東京生まれ。工学院大学造船科卒。1984年進水の10メートル級スクーター「サクセッサ」(「継承者」の意)で再び Wooden Boat 誌に特集されて賞賛を浴び、「SANO MAGIC」と称される。現在の工房名。

ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン  
軽井沢町  
2014年開校  
生徒数195人  
84の国と地域から生徒が集まってきている

### 文化・芸術への取り組み

多様な文化を持つ生徒が集まる当校の芸術への取り組みを紹介しよう。当校では、生徒が主導する様々なクラブ活動がある。海外から来ている生徒たちは、やはり日本文化に興味を持っていて、キモノや茶道などに人気があるようだ。芸術面にも多様性が映し出されるのか、自画像を描くテーマにおいて、例えばイスラム圏の生徒は、宗教による禁忌もあるため自画像は描かない。絵を描く行為ひとつから、個々人の宗教や慣習を尊重することも学んでいる。このほか、町内にある「千住博美術館」ギャラリーで毎年秋に美術作品の作品展も開催している。



写真では生徒がマスクをしていませんが、これは昨年画像です。

### — この人に 逢いたい —

## 浅間山麓にヨットのあそ風景

### ■ 佐野末四郎

マホガニー製自転車、自転車愛好家を驚かせた知る人ぞ知る佐野末四郎さんが、軽井沢に居る。江戸時代から続く造船所の三男として東京に生まれ、13歳で父から船体設計を伝授。14歳で9フィートのディンギー(小型の競走用ヨット)を製作。15歳のとき外洋ヨット(ケッチ)の建造に着手後、3年かけて独力で完成させた。「プリティエンジェル」と命名したこの船、米国の造船専門誌「Wooden Boat」に日本の木造船として初めて紹介された。



でも、木造船を一人で造ってしまうというのは並みはずれている。頑固で負けず嫌いな江戸っ子気質の典型のような人で、波乱万丈な人生を送ってきたと本人は語るが、のめり込み、頑張った結果が今をつくっているのは間違いない。

佐野さんは幼少から器用な子供だった。しかし、いくら器用な子供

2年前、北軽井沢へ向かう千ヶ窪にアトリエと工房を構えた。木造船

### 編集後記

■2020年は、思わぬ事態の勃発に社会生活が一変した。芸術文化も多大なダメージを受けた。そこに身を置き中には暗闇を見た人もいるのだろう。■美術館の情報をもっと掲載したかったが、スペースが取れなかったことが悔やまれる。■特に志賀高原ロマン美術館で開催中のナカムラジンの展示会情報は載せたかった。(11月29日まで開催)■今回も多くの皆さんに協力いただいて漸く発行にこぎつけた。特にオンラインシンポジウムでは、吉田達矢さん、樺嶋賢慈さん、深澤大地さんには多大なご尽力を賜った。この場を借りて御礼申し上げます。(嶋崎)

発行：国際文化都市整備機構 (FIACS) 東京都港区南青山3-1-3 スプライン青山東急ビル4階 (株)エナジーラボ内 編集人：嶋崎 由紀子 デザイン：鈴木 一史

ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン  
軽井沢町  
2014年開校  
生徒数195人  
84の国と地域から生徒が集まってきている

### 文化・芸術への取り組み

多様な文化を持つ生徒が集まる当校の芸術への取り組みを紹介しよう。当校では、生徒が主導する様々なクラブ活動がある。海外から来ている生徒たちは、やはり日本文化に興味を持っていて、キモノや茶道などに人気があるようだ。芸術面にも多様性が映し出されるのか、自画像を描くテーマにおいて、例えばイスラム圏の生徒は、宗教による禁忌もあるため自画像は描かない。絵を描く行為ひとつから、個々人の宗教や慣習を尊重することも学んでいる。このほか、町内にある「千住博美術館」ギャラリーで毎年秋に美術作品の作品展も開催している。



写真では生徒がマスクをしていませんが、これは昨年画像です。

# 軽井沢芸術家新聞

## 2020 第3号

### 困難からいかに立ち上がるか

中国武漢から拡散した新型コロナウイルスは世界中に膨大な感染者と死者を出し、人々の生活を混乱させた。この閉塞状況において、軽井沢の芸術文化に関わる人たちは何をし、何を考えているのか。また芸術文化は軽井沢という地に何をもちたすのか。それらのテーマを掘り下げるシンポジウムが、9月12日(土)に軽井沢友愛山荘にて開催された。主催は国際文化都市整備機構(FIACS)。軽井沢に別荘を持つ企業人・文化人が中心となって、国際的な視野で首都圏と繋がりのある各地のまちづくりに貢献する目的で設立した非営利団体だ。毎年夏には軽井沢友愛山荘にて調査研究成果の報告会やシンポジウム、さらには地元の方々を招いての懇親会・交流会を実施してきた。

### オンラインとドローンの活用

長野県でも感染者が連日のごとく報告され様々な集会在自粛となった。しかしこうした時こそ芸術文化の果たせる役割について語り合うことが重要と考え、初のオンライン開催となった。シンポジウム後に友愛山荘の広大な芝生の庭で懇談できる

### コロナウイルス以降の軽井沢の新しい日常を展望する

## 著名アーティストらによるシンポジウム開催!

のが魅力であったが、今回はそれをドローンによる上空からの映像で補い、視聴者に軽井沢の自然を楽しんでもらうとの工夫がなされた。



### コロナ下で蓄積される芸術家のエネルギー

水野誠一 FIACS 理事長(元西武百貨店社長、元参議院議員)の主催者挨拶後、最初に軽井沢の緑や音楽を守る身近な活動を展開中の加藤正文氏(愛宕山のとっぺんを守る会)と小嶋洋一郎氏(プロジャズギタリスト)からコロナ下の活動状況について報告があった。

次に軽井沢の美術関係に詳しい深澤大地氏(ギャラリー経営)から、軽井沢の世界的アーティスト2人が紹介される。米国生まれで軽井沢在住のデビット・スタンリー・ヒューエット氏(2面で紹介)は、陶芸や平面作品を中心に日本国内はもちろん世界中で個展や展覧会を開いている。金箔を施した作品からは、米国人とは思えない繊細な美しさうかがえる。一方、ピピットな色彩で犬を描く魔術師とも言われ、NYとの繋がり深いタムラエイジ氏(2面で紹介)からも「自粛解除後には爆発的な熱量で芸術活動を展開できそう」との前向きなコメントが寄せられた。

### ベスト対策がルネサンスとその後を支援

続いて登壇した團紀彦 FIACS 理事(青山学院大学教授、建築家)は、今回のコロナを14世紀に大流行したペストに例えた。フィレンツェのポンテ・ベッキオは川の両岸にあったメディチ家の執務用宮殿と住居用宮殿とを結ぶ橋である。橋の中に肉屋があり、肉屋は捌いた肉を川で洗っていたことでペストのさらなる感染が危惧された。そこでメディチ家は独自に橋の上部に回廊を造ったのだが、この回廊には美術品が展示

され、今や回廊美術館として有名だ。それらベスト対策が残ったものが欧州各地でも散見され、ルネサンスの興隆と人々の立ち直りに寄与することになったという。ちなみにセゾン現代美術館の理事も兼務する團氏は、軽井沢の美術館全体の停滞感や閉塞感についても深く憂慮している。キュレーターとして企画開催中の「都市は自然」展では、屋外オープンエアに展開した茶席(胡坐茶席)を通して、コロナ状況(新しい日常)に適合した新しい展示スタイルにもチャレンジしたとのこと。



《胡坐茶席》

### 長野県から世界に習ったアーティストの想い

ここで、長野県坂城町出身で狛犬の作品が大英博物館に永久所蔵されたアーティスト小松美羽氏がリアルでシンポジウムに参戦。オンライン上では、まず広島爆心地至近の護国神社で奇跡的に残った狛犬を訪ねた際の小松氏のニュース映像が紹介された。魂や心のありようを神獣や狛犬で表現する小松氏は、自らの作品を「閉塞状況でダメージは心に来る。狛犬は悪いものを取り外し、人々を守る存在であり、それは人と人とを繋げることに通じる」と語った。

### 困難打開にはアーティストの突破力が必須

團氏と小松氏の話題提供を受け、井口典夫 FIACS 専務理事(青山学院大学教授、都市プロデューサー)がモデレーターとして加わり、以後は3人のトークとなる。團氏から質問された小松氏は「毎朝瞑想します。描くのも瞑想。ある意味、私は描かされている」と回答。さらにコロナとの関係について問われた小松氏は「困難な状況では衣食住が必要。加えて薬の役割でアートがあると思っている」と答えた。



前段の「コロナ下で蓄積される芸術家のエネルギー」に関するやり取りや、小松氏の発言を受け、井口氏は「芸術家は戦争や疫病の絶望にいる人々を見て溜め込んだエネルギーを爆発させ、ピカソのゲルニカや丸木夫妻の原爆絵図、さらには岡本太郎の明日の神話など考えもしないような作品を生み出し、人々はそれを見て困難から立ち上がる力を得た。平時なら政治経済や科学で引っ張れるが、困難においては芸術文化こそ、その力があるのでは」と続けた。團氏は「コロナは人々の精神世界に多大な影響を与えた。政治経済で世界に繋がる街は東京だが、精神世界では軽井沢も大きい」と語る。小松氏は「軽井沢は長野県でも特別な場所」と締めくくった。



### 軽井沢の新しい日常に想う

最後、嶋山由紀夫 FIACS 会長(元内閣総理大臣)より「友愛は自立と共生が基本。コロナと共生する際に芸術文化が重要であり、ふさわしい場所が軽井沢であるとの認識を深めた」との挨拶あり。ここで受けた新たな刺激と感覚を参考に、これからの軽井沢の新しい日常についてじっくり考えてみたいと思ったシンポジウムだった。 嶋崎由紀子



## 軽井沢書店

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1323  
営業時間：9:00 ~ 21:00 (水曜定休) 季節変動あり  
書店：0267-41-1331 / カフェ：0267-41-0344



